

令和3年度

香川大学教育学部と香川県教育委員会との  
連携に関する実績報告書

香川大学教育学部／香川県教育委員会

## 大学改革の動向と今後の教員養成

「香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する覚書」が締結されたのは、平成14年のことです。依頼、20年にわたり活発な連携協力を進めてきています。その間、大学は法人化による中期目標・中期計画、大学改革加速期間、ミッションの再定義といった流れの中で、教員養成の一本化（人間発達環境課程の廃止、教育学研究科の教職大学院化など）を推進してきました。さらに平成28年の「国立教員養成系大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議」の最終報告を受けて、教員養成の内部改革と教員研修機能の強化、附属学校園改革を迫られてきました。また令和2年度あたりから「令和の日本型学校教育」というビジョンが示され、それを担う教師の在り方特別部会が組織され、教員研修や教職大学院のあり方の議論が進んでいるところです。こうした一連の改革は地元の教育委員会との連携なしには推進できるものではありません。今後も一層の連携強化が求められているところです。

令和4年2月には全国で2000人の教員が足りない、といったニュースが注目を集めました。教職の多忙化などブラックイメージの広がりもありました。またケータイやネットゲームなど若者文化の変容、さらに地域や家庭の変容の中で、大学生もまた小中学生も相互に関係形成することの困難が語られています。正直、教員養成の困難期であると捉えています。それゆえにこそ、新しい時代の求める教員像を踏まえるとともに、ナマの大学生や子供たちのリアリティに沿った新しい大学教育の実現が求められると考えています。教育委員会、さらに学校現場とリンクした教員養成改革を実現していきたいと思えます。

令和3年度のこの会議では、香川県教育委員会の教員育成指標の検討と、教職大学院改革とをリンクしていくことを約束しました。国の審議に応じながら、着実に進めていく計画を立てています。今、我々は、本学部の今後の発展のために、これまで以上に地域に求められる教育学部となることを目指していかなければなりません。その礎として、今後とも連携事業の推進を担っていきたいと思えます。

令和4年3月

香川大学教育学部長

野崎 武司

## 香川大学教育学部と香川県教育委員会の一層の連携に向けて

本県では、令和3年10月より第4期「香川県教育基本計画」を策定し、「郷土を愛し 夢と志を持って 自ら学び 歩み続ける人づくり」の基本理念のもと、学校をはじめ家庭や地域と連携・協力しながら、香川で育ったことを人生のゆるぎない礎として、自分の良さや可能性を見出し、夢と志を持って、生涯にわたって学び続けることができるよう、様々な教育施策を積極的に展開しているところです。

このような中、平成14年度からスタートした香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取組は20年目を迎え、教員養成の充実、教員の資質・能力の向上及び教育上の諸課題に対応するため、多方面で連携・協力を進めているところです。

令和3年度の事業を振り返りますと、香川大学の先生方には、県教育委員会各課主催の現職教員研修や各種事業等における講師・助言者として専門的な視点からのご指導・ご助言をいただいたり、学力向上施策を中心としたモデル校事業や道德教育地域支援委託事業において、研究指定校へ直接足を運んでご指導をいただいたりと、様々な場面でご支援、ご協力をいただきました。

また、新たに「香川の子どもたちに読んでほしい100冊」選定委員会、香川型教育メソッド研究会、地域部活動推進事業検討委員会、香川県特色ある体力づくり推進学校(園)審査会、学校防災アドバイザー派遣事業推進委員会、生活リズムでパワーUP事業、等において、連携をお願いし、専門的な立場から貴重なご指導・ご助言をいただきました。

また、坂出高校「教育創造コース」においては、無事3期生を送り出すことができました。新型コロナウイルス感染症対策のため制約が多々あったにも関わらず、教育学部の教授等による出前講座やグループ研究活動の指導をはじめ、附属坂出幼稚園、小・中学校、特別支援学校における実習の受け入れなど、坂出高校教育創造コースの教育にご理解をいただき、多大なるご支援を賜りました。本コースで学んだ生徒たちが、教職への夢を一層膨らませ、理想の教師像を形づくり、未来の香川の教育を担う人材へと育てていくことを期待しているところです。

香川県教育委員会では、平成30年度に「香川県教員等人材育成方針」を策定し、目指すべき香川の教員像として「教育に対する情熱をもち、素養と資質を備えた教員」「専門的な知識や技能・指導力を有し、社会変化や教育課題に適切に対応できる教員」「連携・協働しながら学校運営に積極的に参画する教員」を挙げています。教員等が教職経験に応じた知識・技能を習得し、実践的指導力を高められるよう、香川大学教育学部との連携協力を一層密にしながら、学び続ける教員の育成に向けて努力を重ねてまいりたいと考えております。

令和4年3月

香川県教育委員会教育長

工 代 祐 司

# 目 次

## はじめに

大学改革の動向と今後の教員養成

香川大学教育学部長 野 崎 武 司

香川大学教育学部と香川県教育委員会の一層の連携に向けて

香川県教育委員会教育長 工 代 祐 司

## 香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取り組み

### 【概要編】

令和 3 年度の香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力

に関する取り組み一覧 ..... 2

### 【資料編】

[資料 1] 令和 3 年度公立学校インターンシップ実施要領.....10

[資料 2] 公立学校教員等の活用.....11

[資料 3] 香川大学教育学部の専任教員として.....14

[資料 4] 令和 3 年度香川県教育委員会免許法認定講習.....18  
(特別支援学校教諭)

[資料 5] 教員免許状更新講習.....19

[資料 6-1] 令和 3 年度管理職候補者研修会.....23

[資料 6-2] 教員研修連携プログラム.....24

[資料 7-1] 個を活かす協働的な学びの推進モデル校事業.....26

[資料 7-2] 教育の情報化推進モデル事業.....27

[資料 7-3] 幼児教育支援員派遣事業.....28

[資料 8]	香川県学力等調査結果分析検討会議	30
[資料 9]	第 20 回未来からの留学生について	31
[資料 10]	令和 3 年度特別支援教育コーディネーター協議会	32
[資料 11]	香川 CST 事業	33
[資料 12]	5 つのラボの取組	34
[資料 13-1]	坂出高校教育創造コースの教育内容整備事業	35
[資料 14]	香川大学教職リカレント教育プログラム	40

#### 【覚書・要項】

	香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する覚書	42
	香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会要項	43

香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力  
に関する取り組み

概 要 編

## 香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取組一覧

### I 協議会関係

項 目	令和3年度実績	令和4年度計画等	資 料
①連携協議会等の開催 〔担当：教育学部〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 連携協議会 (R4.2.2)</li> <li>○ 幹事会 開催なし</li> <li>○ 専門委員会 開催なし</li> </ul>	連携協議会開催 (R5.2 予定)  ・ 幹事会 (1 回程度)	
②報告書の作成 〔担当：教育学部〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 令和2年度実績報告書作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度実績報告書作成</li> </ul>	

## II 連携関係

### 1 教員養成に関するもの

項 目	令和3年度実績	令和4年度計画等	資 料
①公立学校での教育実習 〔担当：教育学部〕	<p>正規</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・附特支 公立1校（参観）6月（1日間）</li> </ul> <p>特別</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・附高小 公立小4校（実習）5・6月（10日間）</li> <li>・附坂小 公立小1校（実習）5月（10日間）</li> <li>・附高中 公立中3校（実習）5月（5日間）</li> <li>・附坂中 公立中1校（実習）5・6月（5日間）</li> </ul> <p>※「正規」は、教育実習期間中に行うもの。 「特別」は、希望により行うもの。 ※R3年度は上記の予定であったが、新型コロナウイルスの影響により「中止」。</p>	・継続実施	
②公立学校インターンシップ 〔担当：教育学部〕	<p>○ 教員採用内定者が公立学校で研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者：40名（学部40名、院0名）</li> <li>・実施期間 令和4年2月～3月（5日程度）</li> </ul> <p>※R3年度は新型コロナウイルスの影響により「中止」。</p>	・継続実施	資料1
③教職大学院における公立学校等での実習 〔担当：教育学部〕	<p>○高度教職実践専攻における実習連携協力校園 4校園の連携協力校（中学校2校、小学校1校、幼稚園1園）</p>	・継続実施 39校園の連携協力校園（県立特別支援学校2校、高等学校3校、中学校12校、小学校20校、幼稚園2園）	
④公立学校教員等の活用 （県教育センター） （義務教育課） （高校教育課） 〔担当：教育学部〕 〔担当：県教委〕	<p>○教育実践集中講座の実施</p> <p>※教育関係職員等が附属教職支援開発センター客員教授として講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・退職校長（岡 静子） 主任指導主事（小山 圭、藤原由宜）</li> <li>・年間2期、1人20～25時間程度の講義</li> </ul> <p>○ 現職教員等が教員養成実地指導講師として講義</p>	・継続実施	資料2
	<p>○ 現職教員等3名を大学教員（准教授）として採用（H15.4.1～） 久米亜弥、豊島 修、谷口弓恵</p>	・継続実施	資料3
⑤大学教員の公立学校現場での研修制度（義務教育課） 〔担当：教育学部〕	<p>○ 大学教員が公立学校現場で研修</p> <p>※R3年度は新型コロナウイルスの影響により「中止」。</p>	・継続実施	

## 2 教員研修に関するもの

項 目	令和3年度実績	令和4年度計画等	資 料
①大学院での現職教員の研修 (義務教育課) (高校教育課) (特別支援教育課) [担当：県教委]	○ 内地留学の実施 (H19.8名、H20.7名、H21.8名 H22.7名、H23.6名 H24.5名、H25.5名、H26.5名、H27.5名、 H28.11名、H29.10名、H30.10名、R1.10名、R2.6名、 R3.4名) ・教職大学院学校力開発コース 1名 ・教職大学院授業力開発コース 0名 ・教職大学院特別支援 Co コース 3名 ※人数は1年次(小・中・高)のもの	・継続実施 (令和4年度は8名の 予定) ※8名の内訳(義務教育 課7名、県立(特支) 1名)	
②教員免許状取得のため の研修 (免許法認定講習等) (高校教育課) (特別支援教育課) [担当：県教委]	○ 免許状取得・上進のための研修 ・県主催免許法認定講習(8月～9月)への大学 教員の派遣等	・継続実施	資料4
(免許法認定公開講座) [担当：教育学部]	○小学校の現職教員が中学校教諭免許状(英語) を取得するための免許法認定講習を実施(8 講座、8単位)	・継続実施	
③指導改善研修 (県教育センター) [担当：県教委]	○対象受講者がなかったため、未実施。	・未定	
④教職員研修 (県教育センター) [担当：県教委]	○ 初任者研修・職務研修の講師・助言者として 大学教員を派遣 ※コロナ禍により中止とした研修を含む。 ○令和3年度「小中教育指導研修会」の研修企画 の指導・助言 ○教職大学院連携研修講座として6講座を実施。 ・資質・能力を育む教科の授業づくり 54名 ・道徳科の授業づくり 55名 ・ICTを活用した授業づくり 42名 ・授業における特別支援教育 33名 ・学校の危機管理研究I-① 4名 ・学校の危機管理研究I-② 4名	・継続実施  ・研修講師を派遣  ・継続実施	
⑤特別支援教室への派遣 (義務教育課) (特別支援教育課) [担当：県教委]	○内地留学の実施 (H25 2名、H26 2名、H27 2名、 H28 2名、H29 2名、H30 2名、 R1 2名、R2 1名、R3 1名)	・継続実施	

⑥教員免許状更新講習 [担当：教育学部]	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教員免許状更新講習（対面）として必修講習 7、選択必修講習 16、選択講習 60 の計 83 講習を開設</li> <li>○ 教員免許状更新講習（オンライン）として必修講習 1、選択必修講習 4、選択講習 10 の計 15 講習を開設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員免許状更新講習としてオンライン講習 9 講習を開設する予定</li> </ul>	資料 5
⑦教員研修連携科目の実施 (管理職候補者研修会) (義務教育課) [担当：県教委]  [担当：教育学部]	<ul style="list-style-type: none"> <li>○管理職候補者研修会年8回のうちの2回を香川大学教職大学院開講の「学校の危機管理研究Ⅰ」として実施（大学教員が担当）</li> <li>○学校の危機管理研究Ⅰ（集中・1単位）            8月2日 95名（うち院生3名）            8月3日 87名（うち院生3名）</li> <li>○学校の危機管理研究Ⅱ（集中・1単位）            9月11日 15名（うち院生3名）            9月18日 10名（うち院生3名）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続実施</li> </ul>	資料 6
⑧教職大学院科目等履修制度の創設 (義務教育課) [担当：教育学部]	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教員研修連携科目を履修する場合、事前に「教職大学院科目等履修生」として申請・登録して履修することにより、「教職大学院科目等履修単位」として認定する。</li> <li>○「教職大学院科目等履修単位」を取得した者が教職大学院へ入学した場合は、当該科目を取得済として認定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続実施</li> <li>・ 管理職候補者及び「小中教育指導研修」受講者へ積極的に働きかける</li> </ul>	

### 3 調査・研究に関するもの

項 目	令和3年度実績	令和4年度計画等	資 料
①公立学校等の教育活動支援 (義務教育課) [担当：県教委]	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校内研究活動等への指導・支援のための講師派遣</li> <li>・ 個を活かす協働的な学びの推進モデル校事業</li> <li>・ 教育の情報化推進モデル校事業</li> <li>・ 小学校外国語教育推進モデル校事業</li> <li>・ キャリア教育モデル校事業</li> <li>・ 幼児教育支援員派遣事業</li> <li>・ 豊かでたくましい心をはぐくむ教育の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続実施</li> </ul>	資料 7
②香川県学力等調査結果分析検討会議 (県教育センター) (義務教育課) [担当：県教委]	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「全国学力・学習状況調査」及び「香川県学習状況調査」の結果分析に対する指導助言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続実施</li> </ul>	資料 8

#### 4 事業に関するもの

項 目	令和3年度実績	令和4年度計画等	資 料
①キャリア教育充実事業 (プロを講師とした授業) (高校教育課) [担当：県教委]	○ 大学教員を講師として派遣 ・ 高松桜井高 ・ 高松西高	・ 継続実施	
②高大連携 (高校教育課) [担当：県教委]	○ 高校生が香川大学の公開授業や体験授業に参加 公開授業：1学期10名、2学期8名 体験授業(夏休み)：114名	・ 継続実施	
③学生ボランティアの派遣 (義務教育課) (生涯学習・文化財課) [担当：県教委]	○ 学生ボランティア派遣事業(登録者66名) ・ 学習指導の補助、学校生活への適応補助など公立小・中学校や教育支援センター(適応指導教室)に64名を派遣(R3.12.1現在)	・ 継続実施	
	○ 「放課後子供教室」支援ボランティア等の募集	・ 継続実施	
⑤未来からの留学生 [担当：教育学部]	○ 幼・小・中学生とその保護者を対象に開催 *コロナ禍のため開催を中止	・ 継続実施	資料9
⑥県立学校との連携 (高校教育課) (特別支援教育課) [担当：県教委]	○ 県立学校の学校評議員等として大学教員が協力	・ 継続実施	
⑦各種委員会等への協力状況 (県教委各課) (県教育センター) [担当：県教委]	○ 各種事業委員会の委員等として相互協力	・ 継続実施	
⑧生涯学習の機会の提供 (生涯学習・文化財課) [担当：県教委]	○ 「地域の生涯学習支援事業・キャンパス講座」として大学の授業を公開した。 ※前期は新型コロナウイルス感染症のため中止	・ 継続実施予定であるが、検討中	

<p>⑨特別支援教育体制整備推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家チーム</li> <li>・ 巡回相談</li> <li>・ 特別支援教育コーディネーター協議会</li> <li>・ 就学に関わる教育相談・支援体制構築に関する協議会 (特別支援教育課) 〔担当：県教委〕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体制整備の推進に関する指導・助言</li> <li>○ 学校（園）を訪問し、発達障害を含む障害のある児童生徒への指導内容・方法、学校（園）の支援体制について指導助言</li> <li>○ 特別支援教育コーディネーター協議会での講義</li> <li>○ 就学に関わる教育相談・支援体制構築に関する協議会での講義</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続実施</li> </ul>	<p>資料 10</p>
<p>⑩香川 CST 事業 〔担当：教育学部〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本協議会に設置された専門委員会「香川 CST 事業推進委員会」が実施</li> <li>○ CST 養成プログラムの実施（継続 6 名）</li> <li>○ CST 養成プログラムの修了認定（0 名）</li> <li>○ CST 活動の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続実施</li> </ul>	<p>資料 11</p>
<p>⑪令和 3 年度 独)教職員支援機構連携教職大学院を対象とする地域センター開発支援事業 〔担当：教育学部〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 四国地域教職アライアンス香川大学センター主催の本事業を本学教職大学院との共催において、これまでの道德、英語ラボに加えて、本年度から授業づくり、ICT、保健室ラボを研修の場づくりとして拡大実施。5つのラボ研修会を通じて、主に四国内の教育関係者を対象に各教員の資質・能力向上につなげる内容を教育関係機関や多くの先生方との連携・協働で提供してきた。道德（3 回）保健室（2 回）英語（2 回）ICT（2 回）授業づくり（2 回）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次年度も多様な形で継続実施を検討。</li> </ul>	<p>資料 12</p>
<p>⑫坂出高校教育創造コースの教育内容整備事業 (高校教育課) 〔担当：県教委〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大学教員による指導等 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出前講座の実施（9 回）</li> <li>・ グループ研究指導（3 回）及び研究室訪問受け入れ</li> <li>・ 大学訪問の受け入れ（1 回）</li> </ul> </li> <li>○ 附属学校における活動（計 11 回） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 附属坂出小学校（4 回）</li> <li>・ 附属坂出中学校（3 回）</li> <li>・ 附属坂出幼稚園（3 回）</li> <li>・ 附属特別支援学校（1 回）</li> </ul> </li> <li>○ 教育創造コースの教育内容に関する検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続実施</li> </ul>	<p>資料 13</p>
<p>⑬ICT を利用した障害理解、遠隔授業指導、遠隔教育相談 〔担当：教育学部〕</p>	<p>コロナ禍のため実績なし</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続実施</li> </ul>	

## 5 その他

項 目	令和3年度実績	令和4年度計画等	資 料
①附属学校への教員派遣 (義務教育課) [担当：県教委]	○ 令和3年度新規派遣 ※ ( ) は合計数 ・ 附属高松小 4 (25) ・ 附属高松中 3 (19) ・ 附属坂出小 3 (18) ・ 附属坂出中 3 (19) ・ 附属特別支援学校 2 (13) ・ 附属幼稚園 2 (5) 計 17 名 (101 名)	・ 継続実施	
②教職リカレント教育プログラム [担当：教育学部]	○教員免許状更新講習(オンデマンド型)として 必修講習1、選択必修講習4、選択講習10の 計15講座を開設	・ 未定	資料14

資 料 編

## 令和 3 年度 公立学校インターンシップ実施要領

香川大学教育学部

## 1. 目的

令和 4 年 3 月卒業見込又は修了見込で香川県における教員採用が内定している教育学部又は教育学研究科の学生（大学院生を含む）が、4 月以降の教員としての生活に先立ち、教員の職務の実態に触れることによって、児童・生徒への理解や教員としての職務の理解を深め、教職へ就くことへの意識向上を図る。

## 2. 対象者

令和 4 年 3 月卒業又は修了見込で香川県における教員採用が内定している教育学部又は教育学研究科の学生（ただし教職大学院生及び講師経験のある院生は対象外にすることができる。）

## 3. 参加人数

公立小学校	23 名	公立中学校	10 名
公立小・中学校併願	7 名		
公立高等学校	0 名	公立特別支援学校	0 名

## 4. 実施時期・期間

令和 4 年 2 月～令和 4 年 3 月初旬の間で 1 週間（5 日程度）

## 5. 研修学生（大学院生），研修校及び研修予定期間

※令和 3 年度は新型コロナウイルスの影響により「中止」

## 6. 研修内容

- 児童・生徒の指導
- 職員室での仕事
- 学校行事（朝礼等）への参加  
※土日の学校行事・振替日については、研修校と学生が協議の上、決定する。
- 部活の見学（直接指導はしない）
- その他（研修校の判断による）

## 7. 事前・事後指導

## (1) 事前指導

- 教育学部教員による講話等
- 研修校での直前指導
  - ・「本研修で学びたいこと」についてまとめ（A4判1枚程度），教職支援グループを通じて研修校，香川県教育委員会及び研修校を所管する教育委員会に提出

## (2) 事後指導

- 研修の感想等についてレポートにまとめ，教職支援グループを通じて研修校，香川県教育委員会及び研修校を所管する教育委員会に提出（A4判1枚程度）

## 8. その他

研修の内容・方法等の詳細については，香川県教育委員会及び研修校と協議の上決定する。

## 令和3年度 第1期教育実践集中講座

# 魅力のある職業 先生になろう。

～夢と笑顔を大切にする教師をめざして～

- 【趣 旨】 ・ 教員になるための準備講座である。  
 ・ 教育法規等の各テーマについて、具体的な事例をもとにケーススタディを行う。

- 【担 当】 客員教授 小山 圭（香川県教育委員会事務局 義務教育課 主任指導主事）  
 客員教授 藤原 由宜（香川県教育センター 教職員研修課 主任指導主事）  
 客員教授 岡 静子（公益社団法人 香川県教育会 事務局長）

【日 程】 R3. 6. 10 作成

日 時	場 所	主 な 内 容	備 考
5月22日(土) (13:00~17:00)	オンライン (323)	<講義・演習> (小山・藤原) 【教育法規】Ⅰ「教員になる①(小山)」 「教員になる②(藤原)」	「教育法規入門」の 集中講義として行う。 (久米・豊島)
6月5日(土) (13:00~17:00)	オンライン (323)	<講義・演習> (小山・藤原) 【教育法規】Ⅱ「教員になる③(小山)」 「教員になる④(藤原)」	「教育法規入門」の 集中講義として行う。 (久米・豊島)
7月12日(月) (14:40~16:10)	415 講義室	<講義・演習> (藤原) 【道徳教育】 「道徳科の多様な授業づくり ～心を耕す道徳の授業～」	「道徳教育論(イ)」の 講義として行う。 (櫻井)
7月12日(月) (16:20~17:50)	611 教授法 演習室	<講義・演習> (岡) 【学級経営】 「学級で育つ子どもたちのために」	「学級経営論(イ)」の 講義として行う。 (毛利)
7月28日(水) (13:00~15:00)	415 講義室 (611)	<講義・演習> (小山) 【子ども理解】 「附属学校参観の心がまえ」	「教育実践プレ演習」 の講義として行う。 (松下)

※当該授業履修登録者以外の参加申し込み先 附属教職支援開発センター事務室 TEL : 087-832-1683

## 令和3年度 第2期教育実践集中講座

## プロの教師とは何か？

## ～教師になるあなたへのエール～

【趣 旨】・学校現場における実際の指導(教科、道徳、総合的な学習の時間)の在り方について考える。

・未来への夢や教師への憧れが膨らむような事例を通して、教師のやりがいを探る。

【担 当】客員教授 小山 圭(香川県教育委員会事務局 義務教育課 主任指導主事)  
客員教授 藤原 由宜(香川県教育センター 教職員研修課 主任指導主事)  
客員教授 岡 静子(公益財団法人 香川県教育会 事務局長)

【日 程】

R3. 10. 15

日 時	場所	主 な 内 容	備 考
10月15日(金) (8:50~12:00)	オンライン	<講義・演習>(藤原・岡) 【教育課題の探究】 「いじめ問題の現状と課題」(藤原) 「教員としての倫理観」(岡)	「保育・教職実践演習、教職実践演習」の講義として行う。 (山岸)
11月8日(月) (8:50~10:20)	621 講義室	<講義・演習>(藤原) 【教職理解】 「教職を知る①(中学校)」	「教職概論(イ)(口)(共)」の講義として行う。 (松下)(高木)
11月8日(月) (8:50~10:20)	611 講義室	<講義・演習>(岡) 【教職理解】 「教職を知る①(小学校)」	「教職概論(イ)(口)(共)」の講義として行う。 (松下)(高木)
11月8日(月) (18:00~19:30)	415 講義室	<講義・演習>(小山) 【教育の最新情報】① 「教師に求められる力」	「教職研究Ⅱ」の講義として行う。 (豊島・久米)
11月10日(水) (13:00~16:30)	415 講義室	<講義・演習>(藤原・岡) 【教育実習事後指導】 「教育実習を振り返って」 シンポジウム・助言	「教育実践演習」(教育実習事後指導)の講義として行う。 (山岸)
11月11日(木) (13:00~14:30)	415 講義室	<講義・演習>(小山) 【生徒指導・進路指導】ケーススタディ 「中学校の事例を中心に」	「生徒指導・進路指導論」の講義として行う。 (毛利)
11月15日(月) (16:20~17:50)	415 講義室	<講義・演習>(岡) 【学級経営】 「学級で育つ子どもたちのために」	「学級経営論(口)」の講義として行う。 (毛利)

11月26日(金) (8:50~12:30)	オンライン	<講義・演習>(小山・岡) 【校種別による選択実務研修】 「はばたけ若き力を生かして ～4月からの心がまえ～」 中学校(小山)・小学校(岡)	「保育・教職実践演習、 教職実践演習」の講義として行う。 (山岸)
---------------------------	-------	--	---

11月29日(月) (8:50~10:20)	621 講義室	<講義・演習>(藤原) 【教職理解】 「教職を知る③(中学校) 教師のメッセージが伝わる環境の整備 ～「学級通信・背面掲示」を知ろう・考えてみよう～」	「教職概論(イ)(ロ)(共)」の講義として行う。 (松下)(高木)
11月29日(月) (18:00~19:30)	415 講義室	<講義・演習>(藤原) 【教育の最新情報】③ 「教育課程と学校評価」	「教職研究Ⅱ」の講義として行う。 (豊島・久米)
12月2日(木) (13:00~14:30)	415 講義室	<講義・演習>(藤原) 【生徒指導・進路指導】ケーススタディ 「中学校の事例を中心に」	「生徒指導・進路指導論」の講義として行う。 (毛利)
12月9日(木) (13:00~14:30)	415 講義室	<講義・演習>(岡) 【生徒指導・進路指導】ケーススタディ 「小学校における生徒指導の実際」	「生徒指導・進路指導論」の講義として行う。 (毛利)
12月13日(月) (8:50~10:20)	415 講義室 (仮)	<講義・演習>(小山) 【教職理解】 「授業について考える よい授業とは・よい保育とは」	「教職概論(イ)(ロ)(共)」の講義として行う。 (松下)(高木)
12月15日(水) (10:30~12:00)	621 講義室	<講義・演習>(岡) 【人権教育】 「学校教育における人権教育 小学校での取組事例に学ぶ」	「人権教育」の講義として行う。 (櫻井)
1月24日(月) (13:00~14:30)	教授法 演習室	<講義・演習>(藤原) 【道徳教育】ケーススタディ 「道徳科の多様な授業づくり ～心を耕す道徳の授業～」	「道徳教育論(ロ)」の講義として行う。 (櫻井)
1月24日(月) (16:20~17:50)	教授法 演習室	<講義・演習>(岡) 【子ども理解】 場面指導(ロールプレイ)	「学級経営論(ロ)」の講義として行う。 (毛利)
1月31日(月) (16:20~17:50)	教授法 演習室	<講義・演習>(岡) 【子ども理解】 場面指導(ロールプレイ)	「学級経営論(ロ)」の講義として行う。 (毛利)
1月31日(月) (18:00~19:30)	611 講義室	<講義・演習>(岡) 「学級で育つ子どもたちのために」	「教職研究Ⅱ」の講義として行う。 (豊島・久米)

※当該授業履修登録者以外の参加申し込み先 附属教職支援開発センター事務室 TEL:087-832-1683

※コロナの関係により変更になる場合があります。

## 香川大学教育学部の専任教員として ～19年目の取組と今後の展望～

久米亜弥・豊島 修・谷口弓恵

## 1 19年目の活動内容

## 2 今年度の取り組みの重点

香川大学教育学部では、「4か年を見通した実地教育プログラム」が構築されている。このプログラムにおいて、交流人事教員の教職支援をまとめたものが表1「4か年を見通した教職支援」である。このうち、下線を引いた授業の概要を以下に紹介する。

	1年次	2年次	3年次	4年次				
	学校理解	子ども理解	授業理解	教職理解				
授業	大学入門ゼミ	教職概論(イ)(ロ)	教育実践プレ演習 教育学チュートリアルⅠ 教育学演習ⅠA 学校教育課程論A	初等授業研究 生活科授業研究 教育学演習ⅠB 学校教育課程論B	教育実践演習 教育学演習ⅡA 教育学チュートリアルⅡ	教職研究Ⅱ 教育学演習ⅡB 人権教育	授業実践論 教育学演習ⅢA 教育法規入門	教職実践演習 教育学演習ⅢB
就職セミナー			就職ガイダンス		就職ガイダンス 筆記対策	集団面接 個人面接 模擬授業	卒業前セミナー 公立校インターンシップガイダンス	
その他	教育相談	採用試験説明会	採用試験説明会		教職自主サークル 採用試験説明会	教職自主サークル 採用試験説明会	→	

【表1 4か年を見通した教職支援】

□ …交流人事教員が中心となる授業等

## (1) 学校現場に即した授業の充実

「授業実践論」において学生は、基本的な授業づくり（課題の設定、発問、板書の仕方等）を踏まえて授業構想を立て、模擬授業や事後討議を行うことを通して、実践的な授業研究について学んでいる。他に、模擬面接・集団活動も行い、教育への見方・考え方を深めることができるようにしている。本授業は、交流人事教員3名が中心となり指導に当たっているが、教員採用試験に向けた「教職セミナー」との連携を図ることで、多くの学部教員が模擬授業、模擬面接・集団活動等の指導に関わることができるようになった。

また、教員を目指すほとんどの4年生が受講する「教育法規入門」では、基本的な教育法規（教基法、学校法、地公法、教特法等）及び答申・通知等について、事例をもとにしながら解説を加え、理解を深めるとともに、法令遵守精神の高揚を図っている。授業実践論と同じく、客員教授とも連携を図り、授業の質を高めることができている。

次に、久米と豊島が中心となって行っている2つの授業を紹介する。1つ目は4年生後期「教職実践演習」の授業である。そこでは学級経営や生徒指導について、学校の現状の中での児童生徒への具体的な指導法等を、演習も交えて指導している。

2つ目は、教職を目指す自覚がより高まる時期の3年生に行っている「教職研究Ⅱ」（後期）の授業である。「就職セミナー」や「教職自主サークル」（学生の自主勉強会）と連携、協力しながら、さ

さまざまなテーマで授業を行った。学校現場の各分野で活躍されている方々の講義から教職の基本的実践について学び、教育の最新事情についての理解を深めることができた。先輩の現役教員の講話から教育現場の現状を知ったり、4年生からは今年の教員採用試験に向けての助言を受けたりした。一昨年度より開設したこの授業は、3年生の、教職への意欲を高める大きな契機となっている。

学部2、3、4年生を対象にした「人権教育」の授業では、豊島が教科の専門性を生かしながら、中学校、高校において実践されている人権教育や、そのあり方等について講義を行った。このように、担当する各授業において、交流人事教員がこれまで学校現場で培ってきたそれぞれの専門性を生かし、工夫した授業を行っているところである。

表1の授業以外の、教職大学院においては、谷口が他の大学院教員と連携しながら授業を担当している。「道徳授業の実践研究」では、道徳科におけるより効果的な表現活動のあり方について講義している。また、「授業研究の実際」、「指導法分析と学習支援」では、授業における質的評価のあり方や、授業分析・授業研究について、演習を交えながら授業を行った。いずれも学校現場の実践事例をもとにして演習や協議を組み入れるなど、院生の学びが深まるよう支援を行っている。

## (2) 学生への個別指導（演習ゼミ）

久米、豊島は他教員とも連携し、「教職実践ゼミ」において学生を指導する演習ゼミ指導を行っている。3年生5名4年生6名の指導を担当し、4年次は卒業論文の研究テーマに即して、公立学校における授業参観や教師へのインタビュー等の実践的な学びを通して指導し、求められる教員としての資質・能力の向上を目指している。

また、谷口は「教職実践研究」として、本年度は、院生1名を主担当として指導を担当し、研究テーマに基づいた指導を行っている。院生が週1日継続的に行っている公立校での実習を通して得た実践的学びをさらに深められるよう指導し、教職大学院のテーマである「理論と実践の融合」の実現に努めている。



## (3) 教育委員会・各学校との連携

今年度も従来通り、人的ネットワークを生かして学内外の橋渡し役を務めてきた。地域ブロック研修会での講師、研究大会での指導助言者として、県下の学校等における様々な教育活動推進に尽力してきた。例年4年生が実地研修として参加している香小研高松支部教科研修会においても、各教科部会や学校と事前の連絡調整を行っているところであるが、昨年度、今年度はコロナ禍のため学生の参加は行っていない。

各学校から依頼のあった学習支援や校外活動へのサポート等については、実施に向けて連絡・調整を行った。「生活科授業研究」では、高松市立新番丁小学校の1年生全員を香川大学に招待し、構内を散策しながら「秋みつけ」の授業を学生主体で行った。他にも、卒業研究に関わる授業参観や子どもたちに絵本の読み聞かせを行う等、学生が実際の学校現場の様子を肌で感じながら学ぶことができるよう配慮、連携に努めている。

これまで「キャリア教育」や「進路ガイダンス」で出前授業のニーズが高かった高校との連携であるが、今年から「総合探究」の分野で支援及び連携を推進していくこととなった。派遣依頼のあった高校へ各校の実情に合わせて、講師を派遣した。今年、従来からの坂出高校に加えて、高松西高校、高松東高校に講師を派遣した。また高松桜井高校には、学生をグループ研究アドバイザーとして派遣し、高校生に対して指導、助言を行うなど高大連携の新しい枠組みを模索しているところである。



#### (4) 教員採用選考試験合格へ向けてのサポート～教職自主サークルと個別指導・相談～

授業外では特に、「教職自主サークル」（学生の自主勉強会：毎週月曜日 18:00～19:30）や、「個別指導・相談」（教員の空き時間等活用）等を通して教職を志す学生を支援している。「教職自主サークル」には教員志望の学生の多くが参加し、互いに研鑽する場となっている。交流人事教員3名は毎回オブザーバーとして参加し、指導・助言を行っている。集団討論や模擬授業等に関する各自治体の採用試験の情報・意見交換を行っており、本学ならではの伝統的取組だと内外の評価も高い。交流人事教員は、これらについて学校現場に即した情報を教えるとともに、教育課題をどう捉え、対応するか等、教員としての心構えや仕事の実際について助言を行っている。さらに、8月には二次試験対策として「先輩教員からの模擬授業指導」を、さらに11月には、教職2年目の卒業生から、教職の実際について講話を聴く「卒業生と在校生との交流会」を「教職研究Ⅱ」の授業とタイアップして実施し、学生にとって有意義な学びとなっている。

また、採用試験に向けて個別、グループ指導を望む学生も多くおり、採用試験の願書作成指導、模擬授業、面接・集団活動について個別指導を行っている。これらの指導には、授業以外の多くの時間を要するが、個々の学生とのつながりや理解を深める貴重な機会となっており、交流人事教員が特に力を入れている支援活動である。



#### (5) 大学行事を通しての学生支援

コロナ禍のため、今年度も講座を担当することがなかったが、例年10月に行われる「未来からの留学生（教育学部フェスティバル in 香大）」での「おんどくリンピック」や「ブロックで遊ぼう！」の講座を担当し、学生と子どもたちがふれ合う機会を支援している。

代わって開かれた11月9日（土）「未来からの留学生サテライト」では、「香大生とあそぼう おはなしの国 2021」の講座において、学生と高松市立亀岡小学校の1、2年生の子どもたちがふれ合うことができるよう、学生への支援補助を行った。教育実習等とはまた違った環境の中で子どもたちとふれあい、クイズや創作劇の披露を通して語りかけ方を学ぶよい機会となった。コロナ禍のなかで教育領域の2年生が中心となって企画運営に携わった。学生にとっては、子どもたちと関わる貴重な学びの機会になったとともに、自信を深める機会ともなった。



### 3 今後の課題

現体制（学部担当2名、教職大学院1名）での取組が始まり6年目となる。これまでの交流人事教員が築いてきた功績を受け継ぎながら、さらなる効率化、授業の質の向上を目指している。平成29年度から構築された新たなシステム（表1）を基に、様々な授業科目・内容・体制等について周りの教員と連携して取り組んでいるところである。

昨年度から行わるようになった遠隔授業であるが、今年是对面授業とオンライン配信、オンデマンド配信といったハイブリッドな授業が求められ、教師側としては、まだまだとまどうことばかりである。しかしながらICT機器に対する学生の順応の速さや資料共有の方法、様々なグループワークの工夫から、これまでみられなかった学生の一面を垣間見ることができ、新しい教育の可能性を感じることもできた。遠隔授業ならではの価値を生かすため、新型コロナウイルスの感染防止対策に限らず、これからは戦略的に対面授業と遠隔授業を使い分けていく必要がある。そのために交流人事教員もデジタル技術などを積極的に活用していくリテラシーを身に付けていくことが今後の課題である。

教員の総合的な資質能力の向上が求められている今、交流人事教員それぞれの教職経験から、教職の魅力ややり甲斐について学生に伝えることを通して、心構えを育て、教職の技能を高めていくことが重要である。交流人事教員としての重責を自覚し、将来の教育界を支える優秀な人材の育成に、今後ともしっかり取り組んでいく所存である。

## 19年目の活動内容

(※ 今年度はコロナ禍により開催が中止となった会・行事が多くあり、例年に比べ活動が減少している。)

### 1 学内における活動

#### (1) 委員会等

<久米> 学生支援専門委員会、教職支援開発センター企画推進委員、未来からの留学生アドバイザー

<豊島> 学生支援専門委員会、教職支援開発センター企画推進委員、未来からの留学生アドバイザー

<谷口> 学生支援専門委員会、教職支援開発センター企画推進委員、教職大学院専攻委員

#### (2) 授業等

<久米> 大学入門ゼミ、教育学演習ⅠA、教育学演習ⅡA・B、教育学演習ⅢA・B、教育学チュートリアル、学校教育課程論A・B、教職概論(イ)・(ロ)・共、授業実践論、教育法規入門、教職研究Ⅱ、教職実践演習、生活科授業研究、音楽科教育論、就職セミナー、教職自主サークル、卒論指導・主査、卒論副査

<豊島> 教育学演習ⅠA・B、教育学演習ⅡA・B、教育学演習ⅢA・B、教育学チュートリアルⅠ・Ⅱ、学校教育課程論(ロ)・B・共、教職概論(イ)・(ロ)・共、教育法規入門、教職研究Ⅱ、授業実践論、教育実践演習、教職実践演習、人権教育、就職セミナー、教職自主サークル、卒論指導・主査、卒論副査

<谷口> 【教職大学院】指導法分析と学習支援、道徳授業の実践研究、教職実践研究Ⅰ・Ⅱ、授業力開発実習Ⅰ・Ⅱ、探究実習、授業研究の実際、教職実践研究交流会、教職実践研究フォーラム

【学部】学校教育課程論A、教職概論(イ)・(ロ)・共、教育法規入門、教職研究Ⅱ、授業実践論、生活科授業研究、就職セミナー、教職自主サークル

#### (3) その他

<久米> 「教職実践演習」WG、未来からの留学生講座担当(例年)、卒業前対策講座担当、松楠会学内理事

<豊島> 「教職実践演習」WG、未来からの留学生講座担当(例年)、卒業前対策講座担当

<谷口> 卒業前対策講座担当、未来からの留学生講座担当(例年)、松楠会学内理事

### 2 学外における社会的活動

<久米> 香川県教職員連盟講師部会研修会講師(委員等) 香川県がん教育推進委員、大学入学共通テスト試験(監督)(2022.1)

<豊島> 香川県教職員連盟講師部会研修会講師、放送大学講師、大学入学共通テスト試験(監督)(2022.1)

<谷口> 香川県教職員連盟講師部会研修会講師、大学入学共通テスト試験(監督)(2022.1)

## 令和3年度香川県教育委員会免許法認定講習(特別支援学校教諭)

## 1 目的

特別支援学校教員及び小・中学校特別支援学級担当教員等を対象として、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める免許法認定講習を開設し、特別支援学校教諭二種及び一種免許状を取得、または領域の追加をするための所要単位を修得させるとともに、その資質の向上を図る。

## 2 開設科目、受講人員、期日

	開設科目	受講者数	期日
講義Ⅰ	聴覚障害児の教育課程及び指導法	49名	8月3日(火)・4日(水)
講義Ⅱ	視覚障害児の心理・生理及び病理	73名	8月28日(土)・29日(日)
講義Ⅲ	知的障害児の教育総論	80名	9月11日(土)・12日(日)
講義Ⅳ	病弱児の教育総論	80名	9月18日(土)・19日(日)

## 3 日程(全講義同一日程)

時間	8:45	9:00	9:10	10:40	11:00	12:30	13:30	15:00	15:20	16:50
第1日	受付	オリエンテーション		講義①②	休憩	講義③④	昼食	講義⑤⑥	休憩	講義⑦⑧
第2日		受付		講義⑨⑩	休憩	講義⑪⑫	昼食	講義⑬⑭	休憩	講義⑮⑯

## 4 講師(香川大学)

	期日	科目	講師
講義Ⅱ	8/28・29	視覚障害児の心理・生理及び病理	教授 惠羅 修吉
講義Ⅲ	9/11	知的障害児の教育総論	教授 武藏 博文
講義Ⅳ	9/18・19	病弱児の教育総論	教授 西田 智子

## 香川大学教員免許状更新講習 令和3年度

## 1. 令和3年度 実施状況

## ■ 令和3年6月～10月 開講

	講習数	申込者数	受講者数 (選択講習は延べ数)
必修講習	7	519	404
選択必修講習	16		398
選択講習	60		1,162
廃止講習	10	合計	1,964

\*Zoomを用いた同時双方向型

開設期間	講習名	講師名	受講人数	合格者
6月12日(土)	【選択必修】初心者に向けたVisual Programmingを用いたプログラミング教育入門	宮崎 英一	10	10
	【選択】発達障害への心理学的アプローチ1	惠羅 修吉	30	30
	【選択】児童期における体育・スポーツ指導	上野 耕平	27	27
	【選択】深い学びを実現する算数・数学の学習1	松島 充	12	12
	【選択必修】教育相談はじめの第一歩ーいじめ・不登校を中心にー1	林 智一	15	15
6月19日(土)	【選択必修】発達障害と教育相談	武蔵 博文	28	28
	【選択】小中高理科で扱う圧力と真空の世界	高橋 尚志	20	20
	【選択】PCR法を用いてメンデルの遺伝法則を体感してみよう	杉田 左江子	9	9
6月20日(日)	【選択】ニュージーランドにおける小・中・高等学校での第二言語教育：過去と現在1	バテン ポール	8	8
	【選択必修】災害対応能力訓練システムを用いた学校現場における地震発生時の対応能力養成実習	高橋 亨輔/井面 仁志	17	17
	【必修】1)教育の最新事情	毛利 猛/坂井 聡	105	105
6月26日(土)	【選択必修】国際理解教育としての地理教育を考える	平 篤志	14	14
	【選択必修】カウンセリング・コミュニケーションについての講義と演習	竹森 元彦	27	27
	【選択】モノを買う仕組みをデータ分析の観点から考える1	森貞 誠	27	27
6月27日(日)	【選択必修】教育相談はじめの第一歩ーいじめ・不登校を中心にー2	林 智一	13	13
	【選択】心理学からみた学習意欲	岡田 涼	39	39
	【選択】企業の社会的責任と社会の持続可能性について1	朴 恩芝	3	3
	【選択】日本近代文学において〈子ども〉はいかに描かれたか	渡邊 史郎	14	14
7月3日(土)	【選択】深い学びを実現する算数・数学の学習2	松島 充	9	9
	【選択】学校体育における「水泳教育」の重要性と授業づくりのヒント2	石川 雄一	8	8
	【選択】モノを買う仕組みをデータ分析の観点から考える2	森貞 誠	10	10
	【選択】科学的思考力の発達を促進する理科授業の実習	笠 潤平	7	7
7月18日(日)	【選択必修】英語科教育概論	中住 幸治	8	8
	【必修】2)教育の最新事情	大久保 智生/ 小方 直幸	101	101
	【選択】器楽演奏の実践(リコーダー)	青山 夕夏	10	10
7月31日(土)	【必修】3)教育の最新事情	山岸 知幸/橋本 忠行	72	72
	【選択】少年非行・犯罪の現状と少年法1	吉井 匡	38	38
	【選択】外国人児童生徒と言葉について考える	山下 直子	15	15
	【選択】果樹園芸学	望岡 亮介	12	12
8月1日(日)	【選択】臨床心理学的側面からみた教育現場での問題への対応法について	野口 修司/ 谷渕 真也/坂中尚哉	50	50
	【選択】少年非行・犯罪の現状と少年法2	吉井 匡	13	13
	【選択】教師の指導が助長する問題行動とその見方	大久保 智生	148	148
8月7日(土)	【選択】社会と歴史の教育1	鈴木 正行	16	16
	【選択必修】学校に<かえす>心理学	大久保 智生/ 岡田 涼	105	105
	【選択必修】学校・家庭・地域の連携1	大村 隆史	69	69
8月7日(土)	【選択】日常生活から法律問題を考える	前原 信夫	17	17
	【必修】4)教育の最新事情	大久保 智生/ 山岸 知幸	31	31
	【選択】社会と歴史の教育2	鈴木 正行	7	7
8月8日(日)	【選択】発声指導法(児童発声・変声期)と歌唱実践	若井 健司	9	9
	【必修】5)教育の最新事情	松井 剛太/ 山本 木ノ実	55	55
	【選択】野菜の特性に着目して教材を再検討する1	畦 五月	12	12
8月18日(水)	【選択】ナノテクノロジーと電子材料	小柴 俊	2	2
8月21日(土)	【選択】希少糖とその生産方法	吉原 明秀	9	9

開設期間	講習名	講師名	受講人数	合格者
8月22日(日)	【必修】6)教育の最新事情	櫻井 佳樹/岡田 涼	27	27
	【選択】フランス哲学と哲学カフェ	三宅 岳史	3	3
	【選択】因果関係とデータ分析	島根 哲哉	12	12
8月23日(月)	*【選択必修】職業教育を考える	山田 貴志	5	5
8月24日(火)	【選択】環境に優しいマイクロスケール化学実験ならびに生物化学の基礎	小森 博文/ 高木 由美子	4	4
	【選択】学びへの誘い〜きっかけとしての子ども向け映像作品1	葛城 浩一/佐藤 慶太	39	39
	【選択必修】授業の情報化に伴うデータの可視化とプレゼンテーション	黒田 勉	12	12
8月25日(水)	【選択】発達障害への心理学的アプローチ2	惠羅 修吉	29	29
	【選択】学びへの誘い〜きっかけとしての子ども向け映像作品2	葛城 浩一/佐藤 慶太	35	35
	*【選択】小児医療のトピックス	西庄 佐恵/ 小西 行彦	31	31
8月26日(木)	【選択必修】学校カウンセリングの基本	山田 俊介	31	31
	【選択】幼稚園教諭の転換点について考える	片岡 元子	24	24
	9月4日(土)	【選択】Blocklyによるプログラミング入門	香川 考司	11
9月5日(日)	*【選択】異文化理解と英語によるコミュニケーション能力1	ウィリー イアン デビッド/ ウィリアムズ 厚子	6	6
	【選択】国語表現演習	佐藤 明宏	12	12
	【選択】小学校・中学校歌唱共通教材のピアノ演奏の実践(伴奏法)	東浦 亜希子	9	9
	【選択】絵画(木炭デッサン)制作	古草 敦史	11	11
	9月11日(土)	*【選択必修】道徳科を要とした道徳教育の推進1	植田 和也/清水 顕人	21
9月12日(日)	*【選択】異文化理解と英語によるコミュニケーション能力2	ウィリー イアン デビッド/ ウィリアムズ 厚子	5	5
	【選択】西洋史	唐澤 晃一	25	25
	【選択】初等整数論と暗号理論への応用	高野 啓児	4	4
	【選択】「自由」について考える	石川 徹	9	9
	【選択】倫理について考える	山口 尚美	15	15
	【選択】中国古代帝王伝説	古橋 紀宏	6	6
	【選択必修】道徳科を要とした道徳教育の推進2	植田 和也/清水 顕人	3	3
9月25日(土)	【選択】ニュージーランドにおける小・中・高等学校での第二言語教育:過去と現在2	バテン ポール	5	5
	【選択】消費行動と生活経営	時岡 晴美	14	14
	【選択】子どもを取り巻く環境(メディア・生活習慣・身体活動等)と保健に関わる話	宮本 賢作	29	29
9月26日(日)	【必修】7)教育の最新事情	柳澤 良明/橋本 忠行	13	13
	【選択】運動が苦手な子にもやさしいボール運動教材を考える	米村 耕平	29	29
10月9日(土)	【選択】身の回りで活躍する微生物	田中 直孝	17	17
10月16日(土)	【選択必修】学校・家庭・地域の連携2	大村 隆史	20	20
	【選択】特別支援教育	西田 智子	76	76
	【選択】表現を探る-楽曲の分析を通して-	岡田 知也	7	7
10月16日(土)	【選択】性はなぜあるのか?	松本 一範	10	9
10月17日(日)	【選択】野菜の特性に着目して教材を再検討する2	畦 五月	7	7
	【選択】思考ツールを活用した国語学習の方法	山本 茂喜	19	19
	【選択】天文と気象に関する話題について	寺尾 徹/松村 雅文	16	16
	【選択】エクセルを用いた基本統計処理	堀川 洋	27	27
10月30日(土)	【選択】疾患や生きづらさを持ちながら生活する子どもたち	谷本公重/小崎典子/ 鈴木麻友	35	35
計			1,964	1,963

▶ 廃止講習

- ・一次募集終了時に応募者が5名に満たなかった講習

6月26日(土)	【選択】学校体育における「水泳教育」の重要性と授業づくりのヒント1
7月18日(日)	【選択】企業の社会的責任と社会の持続可能性について2
8月24日(火)	【選択】在宅看護と家族看護の理解
9月11日(土)	【選択】科学史をふまえた理科教育論
9月25日(土)	【選択】パスカル三角形に潜む数学
10月17日(日)	【選択】幾何学的不変量に関する概論

- ・新型コロナウイルス感染症 感染拡大防止のため廃止となった講習

8月19日(木)	【選択】女木島の地質探索1
8月20日(金)	【選択】女木島の地質探索2
8月24日(火)	【選択】子どもと楽しむ身体表現活動1
8月26日(木)	【選択】子どもと楽しむ身体表現活動2

▶ 県別受講状況

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
香川	578	531	523	569	850	1,048	853	588	499
(県外)									
徳島	7	10	12	14	15	15	13	2	2
愛媛	24	17	26	22	27	17	16	6	7
高知	3		7	4	2	3	3		
島根			1	2		1			
岡山	1	4	15	12	23	12	15	7	3
広島		1	3	3	6	1	2	1	1
鳥取				1			1		
山口				2					
その他	6	19	13	9	17	15	12	4	7
小計	41	51	80	69	90	64	62	20	20
合計	619	582	603	638	940	1,112	915	608	519

▶ 年度別受講状況

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
受講申込者数	561	717	585	619	582	603	638	940	1,112	915	608	519
必修	473	571	482	497	489	482	553	676	878	667	508	404
選択必修							536	665	840	623	512	398
選択(延べ)	1,341	1,563	1,333	1,479	1,357	1,290	1,365	1,843	2,144	1,848	1,437	1,162

■講習形態：オンライン講座

■講習期間：令和3年10月1日～令和4年2月28日

■試験期間：令和3年11月5日～令和4年2月28日

■実施状況（令和3年12月22日現在）

	領域	講習名	担当講師	受講人数	合格者
1	必修	教育の最新事情	小方 直幸（教育学部 教授） 松井 剛太（教育学部 准教授） 坂井 聡（教育学部 教授） 大久保 智生（教育学部 准教授）	16	5
2	選択必修	道徳教育の充実	植田 和也（教育学部 教授）	3	1
3	選択必修	教師の指導が助長する問題行動とその見方	大久保 智生（教育学部 准教授）	3	
4	選択必修	災害に学ぶ学校防災	北林 雅洋（教育学部 教授） 寺尾 徹（教育学部 教授）	12	6
5	選択必修	心理学からみた学習意欲	岡田 涼（教育学部 准教授）	8	1
6	選択	道徳教育の充実	植田 和也（教育学部 教授）	4	2
7	選択	教師の指導が助長する問題行動とその見方	大久保 智生（教育学部 准教授）	14	3
8	選択	災害に学ぶ学校防災	北林 雅洋（教育学部 教授） 寺尾 徹（教育学部 教授）	8	2
9	選択	心理学からみた学習意欲	岡田 涼（教育学部 准教授）	8	
10	選択	乳幼児理解から「子どもとつくる保育」へ	松本 博雄（教育学部 教授） 松井 剛太（教育学部 准教授）	14	5
11	選択	表現遊びを楽しむ	岡田知也（教育学部 教授） 藤元恭子（教育学部 教授） 吉川暢子（教育学部 准教授）	19	4
12	選択	子どもの問題の中に発達を見る	加藤弘通（北海道大学大学院 教育学研究院 准教授）	8	2
13	選択	はじめての特別支援教育	小方 朋子（教育学部 教授） 中島 栄美子（教育学部 准教授）	11	4
14	選択	特別支援教育のノロイをちょっぴりほどく—発達障害の子どもに学ぶ	赤木和重（神戸大学大学院 人間発達環境学 研究科人間発達専攻 准教授）	9	4
15	選択	障害があるとはどういうことなのか？—ICFと新しい能力観—	坂井 聡（教育学部 教授）	4	2

▶ 県別受講状況

香川	62
(県外)	
愛媛	3
岡山	2
京都	2
大阪	1
兵庫	2
東京	1
県外小計	11
合計	73

2. 令和4年度 実施計画

(令和3年4月～10月)

	講習数	定員
領域なし	9	270

全てオンデマンド型の講習となります。

講習名	定員	対象職種	講師名
教育の最新事情	30	教諭・ 養護教諭・ 栄養教諭	小方 直幸 松井 剛太 坂井 聡 大久保 智生
道徳教育の充実	30	教諭・ 養護教諭・ 栄養教諭	植田 和也
教師の指導が助長する問題行動とその見方	30	教諭・ 養護教諭・ 栄養教諭	大久保 智生
災害に学ぶ学校防災	30	教諭・ 養護教諭・ 栄養教諭	北林 雅洋 寺尾 徹
心理学からみた学習意欲	30	教諭・ 養護教諭・ 栄養教諭	岡田 涼
乳幼児から「子どもとつくる保育」へ	30	教諭・ 養護教諭・ 栄養教諭	松本 博雄 松井 剛太
表現遊びを楽しむ	30	教諭	岡田 知也 藤元 恭子 吉川 暢子
はじめての特別支援教育	30	教諭・ 養護教諭・ 栄養教諭	小方 朋子 中島 栄美子
障害があるとはどういうことなのか？ ーICFと新しい能力観ー	30	教諭・ 養護教諭・ 栄養教諭	坂井 聡

【第5回の中止に伴い第6回・第7回の内容を変更】

## 令和3年度 管理職候補者研修会 主幹教諭・指導教諭・教諭用

回	月日 (曜)	研修内容		会場	講師
		講義等	法規演習		
1		5月 中止			
2	6月 18日 (金)	義務教育課長講話 管理職の心構え(補佐) オリエンテーション 香川の教育課題 (保健体育、特別支援教育、人権・同和教育、義務教育課)	教育法規の概要	県教育センター (大・5)	義務教育課長 義務教育課課長補佐 関係各課長 事務局職員
3	7月 21日 (水)	【一部オンライン中継】 ・管理職の職務と学校経営 (現職小・中学校長) ・教頭の役割と実務 (現職小・中学校教頭)	服務 児童生徒の就学	県教育センター (1中・2中)	現職小・中学校長 現職小・中学校教頭 事務局職員
4	8月 2日 (月)	【オンライン研修】 学校の危機管理について ・学校安全 ・生徒指導	講義に法規内容含む	各学校または、 県教育センター (ICT)	香川大学
5	8月 3日 (火)	【オンライン研修】 学校危機管理について ・教員のメンタルヘルス ・保護者・地域住民との協働	講義に法規内容含む	各学校または、 県教育センター (ICT)	香川大学
6	9月 9日 (木)	中止			
7	11月 5日 (金)	学校組織マネジメント 市町教委教育長講話 学校と市町教育委員会 市町教委と教育事務所 企業の組織マネジメント	児童生徒の懲戒 ハラスメント 分限・懲戒 学校保健・安全	県教育センター (1中・2中・5)	市町教委教育長 市町教委事務局職員 事務局職員
8	1月 18日 (火)	カリキュラム・マネジメント 目標申告・評価制度 人事評価制度 教育長講話 1年間の研修のまとめ	教科書・補助教材等	県教育センター (大・5)	現職校長 教育長 事務局職員
資料送付		学校事務 免許更新制 公務災害 学校事故への対応			

※ 講話に代えて資料送付となった研修については、送付した資料を活用し、自主研修をするようお願いいたします。

※ 法規演習「教科書・補助教材等」は1月の第7回研修会に変更になりますが、発表担当者が作成する資料の原稿は、当初の予定どおり、第6回研修会の1週間前までに義務教育課担当宛に送付してください。(印刷して持参するのは1月)

教育委員会との連携によるスクールリーダー養成・研修プログラムの実施について  
～教員研修連携科目と教職大学院連携研修の構築～

学校力開発コース

## 1. プログラム実施の背景・趣旨・目的

学校を取り巻く環境の変化に伴い、多様化・複雑化した問題や課題が生起している。そうした中、諸課題を主体的に受け止めて解決を図るスクールリーダーの育成が求められている。他方、教員の志願者のみならず管理職候補者登録選考試験の受験者数が減少傾向にあり、次代の学校教育を推進する人材の育成が喫緊の課題となっている。

教職大学院では、香川県教育委員会・香川県教育センターとの連携協力を強化し、香川県教員等人材育成方針及び指標に基づいた危機管理をはじめとする高度な実務能力を備えたスクールリーダーの育成に重点的に取り組むことを重点課題として掲げ、教員研修の中核パートナーとして、教員の養成と研修の一体的な取り組みの推進に寄与したいと考えている。

## 2. 現状

香川大学教職大学院は、平成 31 年度から 2 年間独立行政法人教職員支援機構の事業委託を受け、「教育委員会との連携によるスクールリーダー養成・研修プログラムの開発～ラーニングポイント制の構築に向けて～」について検討を行い、連携・協働事業として次の 3 点が実現している。

- ① 香川県教育センターにおける教員研修体系に、「教職大学院連携研修」<sup>\*1</sup>を位置付ける。  
※1 「教職大学院連携研修」は、教職大学院科目の一部を教員研修として提供
  - ・教職大学院連携研修講座 「資質・能力を育む教科の授業づくり」
  - 「道徳科の授業づくり」
  - 「ICT を活用した授業づくり」
  - 「授業における特別支援教育」
  - 「学校の危機管理研究Ⅰ—①」 「学校の危機管理研究Ⅰ—②」
- ② 教職大学院学校力開発コース科目として、スクールリーダーの養成を目指すことを目的として教員研修との連携を図った「教員研修連携科目」<sup>\*2</sup>を創設した。  
※2 「学校の危機管理研究Ⅰ」集中：2 日間（管理職候補者研修に含む）  
「学校の危機管理研究Ⅱ」集中：2 日間（土曜日開催・希望履修）  
なお、「学校の危機管理研究Ⅱ」を希望履修した管理職候補者が 3 年以内に教頭として徴用された場合は、「新任教頭研修」の当該内容に係る研修を免除することができる。
- ③ 新たな研修形態として、対面による集合研修に加えてリアルタイムで受講する同期型遠隔研修<sup>\*3</sup>を実施した。  
※3 「資質・能力を育む教科の授業づくり」 「学校の危機管理研究Ⅰ・Ⅱ」

## 3. 課題と本年度の取組

### (1) 課題

- ① スクールリーダー、とりわけ学校管理職を志望する教員の減少に伴い組織的・計画的に人材開発を行う必要がある。
- ② 教員の働き方改革が進められている中「学び続ける教員像」の具現化を図るため、教員が「学びたい時に学べる」研修環境を整備する観点から教員研修における「研修受講履歴記録」の在り方、「ラーニングポイント制」の導入及び教員研修体系の多様化を検討する必要がある。

### (2) 本年度の取組

検討にあたっては、本連携協議会の専門委員会の下、平成 31 年度に設置された「教員研修システム共同開発ワーキング」において、香川大学教職大学院、香川県教育委員会・香川県教育センター及び中核市として管内教員の研修主体となっている高松市教育委員会・高松市総合教育センターの各担当により協議を行っている。

資料1. 教員研修システム共同開発ワーキングの開催状況

回	開催日	検討内容
第1回	令和3年 5月11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教員研修に係る連携・協働の実績について</li> <li>○教員研修に係る令和3年度の取組について</li> <li>○今年度の検討課題について <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職大学院と連携した教員研修の在り方 (研修受講履歴(ラーニングログ)及びラーニングポイント制)</li> <li>・スクールリーダーを目指す教員の資質・能力の向上に係る研修の在り方</li> <li>・遠隔研修(同期型、非同期型、ハイブリッド型)の在り方</li> </ul> </li> </ul>
第2回	令和3年 6月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教員研修連携科目及び教職大学院連携研修について</li> <li>○教員研修に係る取組について (県教委義務教育課、県教育センター、高松市総合教育センター)</li> <li>○スクールリーダー養成に関する意向について</li> <li>○研修受講履歴に記載する要素や手続きの在り方について</li> </ul>
第3回	令和3年 9月7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教員研修連携科目及び虚飾大学院連携研修の実施状況について</li> <li>○香川大学教職大学院「科目等履修生」登録制度を活用した人材育成の在り方について</li> <li>○中央教育審議会「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会教員免許更新制小委員会「審議まとめ」を受けて <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修受講履歴及びラーニングポイント制</li> </ul> </li> </ul>
第4回	令和3年10月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○令和4年度教員研修に係る連携・協働について</li> <li>○スクールリーダー養成に係る教育委員会と教職大学院の一体的な取組に向けて <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育指導研修講座</li> <li>・管理職候補者研修</li> <li>・教職大学院連携研修</li> <li>・教職大学院「科目等履修生」登録制度</li> </ul> </li> <li>○教員等人材育成指標との関連を図ったラーニングポイント制の導入に向けて <ul style="list-style-type: none"> <li>・論点1: 研修受講履歴の記録及び管理の目的</li> <li>・論点2: 研修受講履歴記録の具体的な活用</li> <li>・論点3: 目的に対応した具体的方策</li> <li>・論点4: 教員等人材育成指標との関連を図ったラーニングポイント制の導入</li> </ul> </li> </ul>
第5回	令和3年11月16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○令和4年度教員研修に係る連携・協働について</li> <li>○教員等人材育成指標との関連を図ったラーニングポイント制の導入に向けて</li> </ul>
第6回	令和3年12月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研修内容と教員等人材育成指標との関連表の作成について</li> <li>○令和4年度における遠隔研修について</li> </ul>
第7回	令和4年1月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今年度の検討事項のまとめについて</li> <li>○令和4年度教員研修について</li> </ul>

資料2. 令和4年度教職大学院連携研修及び教員研修連携科目実施予定

教職大学院連携研修講座名	実施日	研修形態	定員
401 資質・能力を育む教科の授業づくり	8月17日(水)	双方向配信型	50人
402 道徳科の授業づくり	7月27日(水)	集合型	50人
403 ICTを活用した授業づくり	7月28日(木)	集合型	30人+30人
404 授業における特別支援教育	7月21日(金)	集合型	50人
405 学校の危機管理研究Ⅰ―①	8月2日(火)	双方向配信型	100人
406 学校の危機管理研究Ⅰ―②	8月3日(水)	双方向配信型	100人

教員研修連携科目	実施日	研修形態	定員
(希望受講) 学校の危機管理研究Ⅱ―①	9月10日(土)	双方向配信型	100人
(希望受講) 学校の危機管理研究Ⅱ―②	9月17日(土)	双方向配信型	100人

## 個を活かす協働的な学びの推進モデル校事業

### 1 趣旨について

学力の向上に向け、児童生徒同士による学び合い、多様な体験活動の重要性が高まる中で、協働的な学びを実現し、児童生徒が主体となって興味・関心に応じた課題や深める価値のある課題を設定し、多様性や協働性を発揮しながら課題解決に取り組み、自己の学習成果を実感できるような授業づくりが求められる。

本事業では、モデル校を指定して研究を市町に委託して行い、その成果を普及することで県内の児童生徒の学力の向上に資する。

### 2 事業実施の概要

- (1) 香川県教育委員会は、予算の範囲内で、モデル校を5校程度指定し、当該校を設置する市町との間で委託契約を締結する。
- (2) 具体的な研究テーマは、本事業の趣旨を踏まえ、各モデル校で設定する。次の例示を参考に実践的な研究を行う。
- (3) モデル校は、原則として授業の積極的な公開に努めるとともに、香川の教育づくり発表会などを通して研究成果の積極的な普及・啓発に努める。
- (4) 香川県教育委員会は、モデル校における公開授業等についてホームページによる情報提供などの取組を必要に応じて実施し、モデル校の取組を支援するとともに、教員の指導力の向上や研究情報の普及を図る。
- (5) 香川県教育委員会は、香川大学と連携を図り、モデル校の研究を支援する。大学教員は、モデル校を訪問するなどして、指導・助言を行う。
- (6) 香川県教育委員会は、モデル校に対して指導主事を継続的に派遣し、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。
- (7) 香川県教育委員会は、市町（学校組合）教育委員会と連携を図り、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。

### 3 モデル校への派遣実績

学校名	日時	訪問者	内容
綾川町立 滝宮小学校	令和3年6月9日（水） 14:05～16:30	准教授 清水顕人	教科学習の研究授業後、討議会における指導・助言
綾川町立 滝宮小学校	令和3年9月15日（水） 14:05～16:30	准教授 清水顕人	教科学習の研究授業後、討議会における指導・助言
綾川町立 滝宮小学校	令和3年10月29日（金） 14:05～16:30	准教授 清水顕人	教科学習の研究授業後、討議会における指導・助言
高松市立 香川第一中学校	令和3年7月12日（月） 13:45～14:45	准教授 岡田 涼	職員研修における指導・助言
高松市立 香川第一中学校	令和3年9月30日（木） 13:45～16:00	准教授 岡田 涼	教科学習の研究授業後、討議会における指導・助言
高松市立 香川第一中学校	令和3年11月4日（木） 13:45～15:40	准教授 岡田 涼	教科学習の研究授業後、討議会における指導・助言
琴平町立 琴平中学校	令和3年8月27日（金） 11:00～11:50	准教授 清水顕人	職員研修における指導・助言
琴平町立 琴平中学校	令和3年10月25日（月） 14:30～16:20	准教授 清水顕人	教科学習の研究授業後、討議会における指導・助言

#### ※ モデル校の研究内容

- 綾川町立滝宮小学校  
研究主題 つながり分かち合う喜びを通して児童の自立を促す授業づくり
- 高松市立香川第一中学校  
研究主題 自他のよさを認め、主体的に未来を切り拓く集団づくり
- 琴平町立琴平中学校  
研究主題 社会性を育む協働的・探究的な学習を実現する指導体制、方法の研究

## 教育の情報化推進モデル校事業

### 1 趣旨について

将来の予測が難しい社会において、情報を主体的に捉えながら、何が重要かを主体的に考え、見いだした情報を活用して他者と協働し、新たな価値の創造に挑んでいくためには、情報活用能力の育成が重要となる。またその指導過程において ICT の活用が不可欠である。

本事業では、モデル校を指定して研究を市町に委託して行い、その成果を普及することで県内の児童生徒の情報活用能力の育成に資する。

### 2 事業実施の概要

- (1) 香川県教育委員会は、予算の範囲内で、モデル校を2校程度指定し、当該校を設置する市町との間で委託契約を締結する。
- (2) モデル校は、香川県教育センターが実施する調査研究事業に協力する。
- (3) 具体的な研究テーマは、本事業の趣旨を踏まえ、各モデル校で設定する。
- (4) モデル校は、原則として授業の積極的な公開に努めるとともに、香川の教育づくり発表会などを通して研究成果の積極的な普及・啓発に努める。
- (5) 香川県教育委員会は、モデル校における公開授業等についてホームページによる情報提供などの取組を必要に応じて実施し、モデル校の取組を支援するとともに、教員の指導力の向上や研究情報の普及を図る。
- (6) 香川県教育委員会は、香川大学と連携を図り、モデル校の研究を支援する。大学教員は、モデル校を訪問するなどして、指導・助言を行う。
- (7) 香川県教育委員会は、モデル校に指導主事を継続的に派遣し、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。
- (8) 香川県教育委員会は、市町（学校組合）教育委員会と連携を図り、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。

### 3 モデル校への派遣実績

学校名	日時	訪問者	内容
高松市立林小学校	令和3年9月16日(木) 13:15 ~ 16:30	准教授 岡田 涼	教科学習の研究授業後、 討議会における指導・助言
高松市立林小学校	令和3年11月12日(金) 13:15 ~ 16:30	准教授 岡田 涼	教科学習の研究授業後、 討議会における指導・助言
高松市立林小学校	令和3年1月21日(金) 13:15 ~ 16:30	准教授 岡田 涼	教科学習の研究授業後、 討議会における指導・助言

### ※ モデル校の研究内容

#### ■ 高松市立林小学校

研究主題 学ぶ楽しさを実感し、主体的に学ぶ子どもの育成

## 幼児教育支援員派遣事業

幼児教育に関する知識・経験を有する者を幼稚園・認定こども園に派遣することによって、「香川県就学前教育振興指針」（令和 2 年 2 月）の趣旨の普及及び地域の実情に応じた具体的な取組を進め、もって香川県内の幼児教育の推進を図ることを目的とする。

幼稚園（幼稚園型認定こども園を含む。）及び幼保連携型認定こども園（以下、「幼稚園等」という。）と幼児教育支援員が協力して、次の内容に重点をおいた取組を推進することとする。

- 幼稚園等における遊びの充実
- 園内研修の活性化
- 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続について

### 1 幼児教育支援員

「幼児教育支援員」（以下「支援員」という。）とは、次の者をいう。

- (1) 幼児教育に関し識見を有する者であって、香川県教育委員会事務局（以下「県教育委員会」という。）義務教育課長が指名する者

No.	氏名	役職・分野
1	片岡 元子	香川大学教育学部教授・幼児教育
2	松本 博雄	香川大学教育学部教授・幼児教育
3	松井 剛太	香川大学教育学部准教授・幼児教育
4	吉川 暢子	香川大学教育学部准教授・幼児教育
5	金子 之史	香川大学名誉教授・理科教育

- (2) 県教育委員会指導主事

### 2 支援員の職務

支援員の職務は、次のとおりとする。

幼稚園等の申請に基づき、幼稚園等を訪問し、公開保育の参観・研究協議会の参加等を通じて、指導・助言を行う。

### 3 派遣実績（令和 3 年度：6 市町 1 0 園）

	園 名	訪問日	研修内容	支援員
1	多度津町立四箇幼稚園	令和 3 年 6 月 17 日(木)	適切な環境構成や遊びにおける教師の働きかけ	金子之史先生
2	善通寺市立南部幼稚園	令和 3 年 6 月 24 日(木)	職員同士の学び合いを深める園内研修のあり方	金子之史先生
3	宇多津町立宇多津幼稚園	令和 3 年 7 月 14 日(水)	振り返りや幼児理解を明日の保育につなぐ手立て	吉川暢子先生
4	善通寺市立中央幼稚園	令和 3 年 9 月 22 日(水)	心と体を動かし遊びこむ子どもを育むための環境構成や支援のあり方	片岡元子先生
5	多度津町立豊原幼稚園	令和 3 年 10 月 1 日(金)	特別な配慮や支援が必要な子どもたちへの適切なかかわり	松本博雄先生
6	多度津町立多度津幼稚園	令和 3 年 10 月 15 日(金)	子どもが主体的に思い思いの遊びを展開するための援助・環境構成	吉川暢子先生
7	高松市立国分寺北部幼稚園	令和 3 年 10 月 25 日(月)	子どもが自ら遊びに取り組み継続して遊びこむための環境のあり方	松井剛太先生
8	観音寺市立観音寺中央幼稚園	令和 3 年 10 月 29 日(金)	繰り返し遊び、工夫しながら高め合う集団になるための環境づくり	片岡元子先生

9	丸亀市立郡家こども園	令和3年11月1日(月)	子ども理解を深める園内研修のあり方、遊びを通じた学びを伝える工夫	松本博雄先生
10	丸亀市立城東幼稚園	令和4年1月24日(月)	遊びこむ子どもを育むための支援のあり方と、実践発表の工夫	松井剛太先生

## 香川県学力等調査結果分析検討会議

「全国学力・学習状況調査」及び「香川県学習状況調査」の結果分析並びに県下各小中学校が分析結果を有効活用できるよう支援することを目的とする。

分析検討会議は、次の内容に重点をおいた取組を推進することとする。

- 「全国学力・学習状況調査」及び「香川県学習状況調査」の結果分析
- 「香川県学習状況調査」の問題（国語科・算数科）及び質問項目の内容検討

## 1 委 員

No.	氏名	役職	分野/領域
1	佐藤 明宏	香川大学教育学部教授	教科教育分野 国語領域
2	松島 充	香川大学教育学部准教授	教科教育分野 数学領域
3	岡田 涼	香川大学教育学部准教授	教育課題研究分野 心理領域
4	横山 佳充	香川大学経済学部教授	経済・政策領域 経済・政策分析コース

## 2 分析検討会議

日 時	主な内容
令和3年 9月13日（月）	○ 令和3年度全国学力・学習状況調査の報告書についての分析検討
令和4年 1月14日（金）	○ 令和3年度香川県学習状況調査の報告書についての分析検討

## 第 20 回未来からの留学生について

実行委員長 藤元恭子

「教育学部フェスティバル」と銘打つ本事業は、大学を地域に公開することにより、本学部と地域を直接的に繋ぐ機会であると同時に、活動の企画や運営を通じ、特に教育実習を前にした学生自身が子どもとの接し方を実際に学ぶ貴重な機会となっております。コロナ禍の中、昨年度開講された「未来からの留学生サテライト」は、教育学部ウェブページ・香川大学公式 youtube チャンネルからのオンラインによる動画配信と、学校園訪問を主とする講座を開講し、継続することの意義と難しさを考えさせられるものとなりました。

そのような振り返りをしつつ、対面に勝る学びはないと、今年度は規模を縮小、形式を事前申し込み型のみに変更し、感染予防対策を十分に講じるなど協議しながら、これまでと同様の準備をしてきました。

8月初旬までは、開催できる可能性が十分にあり、配布するポスターとパンフレットも作成しました。中旬には、特設 HP もアップされ、準備の追い上げをするまでに気運は高まっていました。ところが、8月下旬、感染の急拡大を受け、9月には全国的にもまん延防止等重点措置が発出・延期される事態となってしまいました。本事業は幼・小の子どもたちとの触れ合いをメインの活動としていたこともあり、協議を重ねた結果、本年度は中止とするという決断をいたしました。

それまでの準備を無駄にしないために、連携授業である「教育実践プレ演習」の中で代替活動を行い、「子ども理解」につながる学びの一環となるよう領域ごとに実施していただきました。また、幼児教育コースでは、感染も落ち着いた、12月7日（火）に近隣の保育所の子どもたちを大学に招いて人形劇を上演し、子どもたちとの触れ合いを楽しむことができました。

本年度の活動を進めるにあたり、県内の教育関係者をはじめとする皆様方、まだ学部関係者のご協力なしでは成立しない事業であることをあらためて痛感いたしました。この経験を活かし学生と地域にとって最善の活動のあり方を今後も検討してまいりたいと考えております。

来年度以降の活動につきましてもどうかご支援頂けますようお願い致します。



## 令和3年度特別支援教育コーディネーター協議会

## 1 目的

幼稚園、認定こども園、小・中学校並びに高等学校において、発達障害を含む障害のある児童生徒の指導・支援を充実させるために、また、特別支援学校のセンター的機能を充実させるために、そのリーダー的役割を担う特別支援教育コーディネーター等を対象に、特別支援教育に関する現代的課題を共有することを目的とする。

## 2 対象及び受講者数

実施日	開催地域	対 象	受講者数
9月 7日(火)	仲 善	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	45名
9月14日(火)	中 讚	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	74名
10月14日(木)	西 讚	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	57名
11月12日(金)	小 豆	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	21名
11月24日(木)	高 松	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	118名
合計			315名

## 3 研修テーマ及び講師（香川大学教育学部）

実施日	研 修 テ ー マ	講 師
9月 7日(火)	「学校支援体制と外部機関との連携」	教授 宮前 義和
9月14日(火)	「発達性読み書き障害の理解と指導・支援」	准教授 中島 栄美子
10月14日(木)	「発達障害による困難さと効果的な医療的アプローチについて」	教授 西田 智子
11月12日(金)	「知能検査等のアセスメントを踏まえた児童生徒への支援について」	教授 惠羅 修吉
11月24日(木)	「発達障害やそれに伴う二次障害等による困難さについての適切な理解と対応について」	教授 武藏 博文

## 香川 CST 事業

独立行政法人科学技術振興機構（JST）の理数系教員（コア・サイエンス・ティーチャー）養成拠点構築事業において、香川大学と香川県教育委員会が共同して提案した企画が平成 23 年度に採択された。支援期間は平成 26 年度までであった。平成 27 年度以降は「香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会」のもとに設置された専門委員会「香川 CST 事業推進委員会」が業務を引き継ぎ、CST 養成プログラム（教材 CST、現職教員向け教材 CST）を実施し、CST 活動を推進することになった。令和 3 年度の主な取組みは以下のとおりである。

### ■ 受講者

#### (1) 学生

教材 CST = 6 名（継続 6 名、新規 0 名）

令和 3 年度修了予定 0 名

#### (2) 現職教員

教材 CST = 実施なし

### ■ 教材 CST 研修会

実験・観察教材開発研修会

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、今年度は未実施

## 5つのラボの取組

(四国地域教職アライアンス香川大学センター主催の研修機会の提供)

植田 和也 (道徳、保健室)、中住幸治 (英語)

松下幸司 (ICT)、清水顕人 (道徳、授業づくり)

令和3年度 独)教職員支援機構連携教職大学院を対象とする地域センター開発支援事業

四国地域教職アライアンス香川大学センター主催の本事業本学教職大学院と香川県教育センターが連携のもと、平成28年度から継続的に実施してきた道徳ラボと令和元年度から実施の英語ラボを研修機会の提供としてきた。道徳ラボは、四国アライアンス広域連携型プログラムの「SP3 社会の変化と子供の心 道徳教育の指導」に、英語ラボは「SP4 小学校英語」に位置付けながらオンライン発信も活用しながら実施してきた。

加えて、令和3年度から授業づくりラボ、保健室ラボ、ICTラボを研修の場づくりとして実施している。5つのラボ研修会を通じて、主に四国内の教育関係者を対象に具体的な各学校や教員の取組について、不安や悩みの軽減を図るとともに、各教員の資質向上につながる研修内容を教育関係機関や多くの先生方との連携・協働で提供してきた。

今後も各教員・大学・附属学校・行政等、互いのネットワークづくりの構築にも寄与したい。

表1 令和3年度研修の実施内容(実施時期、対象人数、会場、日程、内容等)

No	研修(セミナー)名	内容	実施方法	日程	参加人数
1	保健室ラボ 第1回	心の健康を支援する養護教諭・保健室経営(語り合い・講演・情報交換)	併用※対面参加は香川県内に限る	7月10日	61
2	授業づくりラボ 第1回	子どもがときめく授業づくりと若年教員研修(講話・演習)	併用※対面参加は香川県内に限る	8月21日	43
3	ICTラボ2021 第1回	授業支援システム"SkyMenu"活用講座(演習・実習)	併用※対面参加は四国内に限る	8月25日	75
4	英語ラボ2021 第1回	小学校英語における指導と評価の一体化を目指した授業づくり(講話・演習)	オンライン	9月18日	24
5	道徳ラボ2021 第1回	道徳科の授業づくり(四国4県の実践交流、講演・情報交流)	併用※対面参加は香川県内に限る	10月9日	105
6	保健室ラボ 第2回	養護教諭に求められる資質・能力について(調査研究紹介・語り合い・ワークショップ、講演)	併用※対面参加は香川県内に限る	11月6日	63
7	道徳ラボ2021 第2回	いじめ問題と道徳教育(四国4県の実践報告・交流、調査研究紹介、シンポジウム)	併用※対面参加可能	12月4日	83
8	道徳ラボ2021 第3回	小学校での道徳教育の取組	併用※対面参加可能	12月18日	55
9	授業づくりラボ 第2回	教材研究と授業づくり	併用	1月28日	
10	英語ラボ2021 第2回	中学校・高等学校における観点別評価の実際(予定)	併用	2月19日	
11	ICTラボ2021 第2回	授業実践におけるICTの活用に学ぶ	併用	2月予定	

令和3年度 坂出高校教育創造コースに対する香川大学教育学部からの支援について  
月日の欄の※印は別添資料あり

## 1. 大学教員による指導等

## (1) 出前講座

回	月・日	学年	担当講師	講義のタイトル
1	5月28日	2年生	片岡元子 先生	幼児期の教育～遊んで大きく育つ～
2	6月4日	3年生	山神眞一 先生	人生は、「やる気」「根性」「出逢い」!!
3	6月25日	2年生	小方朋子 先生	特別支援教育について
4	9月24日	3年生	坂井 聡 先生	障害があるってどういうこと?
5	10月8日	1年生	岡田 涼 先生	やる気の心理学
6	10月22日	1年生	清水顕人 先生	子どもとかわるときに一番大切にしたいこと
7	10月29日	1年生	小方直幸 先生	16歳からの社会学
8	11月5日	3年生	野崎武司 先生	主体的・対話的に学ぶということ
9	2月18日	2年生	高木由美子先生	教職を知る—中学校生活

## (2) グループ研究指導

回	月・日	学年	担当講師	内容
1	4月23日※	3年生	小方朋子 先生、松井剛太 先生 中島栄美子先生	研究発表会
2	1月28日	1年生	毛利 猛 先生、小方朋子 先生	1年生研究発表会
		2年生	毛利 猛 先生、小方朋子 先生	研究中間発表会
3	3月11日	1・2年生	毛利 猛 先生、豊島 修 先生	1年間のまとめ発表

この他、春季休業中に、生徒は各研究室の先生方から指導を受けている。

## (3) 香川大学訪問

月・日	学年	担当講師	内容
2月4日	1年生	毛利猛先生、小方朋子先生	施設見学、大学説明、講義の聴講

## 2. 附属学校における活動

学年	訪問先	回	月・日	内容
1年生	附属坂出小学校	1	10月22日	授業見学、給食、遊び、清掃指導等
		2	11月19日※	授業支援、給食、遊び、清掃指導等
		3	2月18日	授業補助、給食、遊び、清掃指導等
2年生	附属坂出中学校	1	7月9日	総合学習CAN発表会の支援活動
		2	10月29日※	総合学習CAN発表会の支援活動
		3	12月1日	授業見学
	附属坂出幼稚園	1	10月1日※	支援活動①
		2	1月18・19日	支援活動②
		3	2月3日	支援活動③
附属特別支援学校	1	11月12日※	訪問・学校説明・授業見学	
3年生	附属坂出小学校	1	10月15日	教育実習生の研究授業の見学

# 教育問題に関する「グループ研究発表会」 を行いました（3年）

4月23日(金)教育創造コースの3年生が、教育創造コースの活動の集大成となるグループ研究発表会を音楽ホールで行いました。生徒達は昨年9月から3・4人で班を作り、教育問題に関するテーマを設定し、グループで研究を行ってきました。今年の1月には中間発表会を行い、その後、香川大学の先生方をはじめたくさんの方にアドバイスをいただきながら、研究を進めてきました。

班	研究テーマ一覧（3年生）
1	理科が好きになる授業とは
2	選挙と教育
3	グレーゾーンの子どもたちとの向き合い方
4	発達段階における自己肯定感の推移についての考察
5	障害ってなんだろう？
6	早期英語教育で何が変わるのか？
7	どんな学生も同じ教室で過ごすには？
8	通級を身近に～共生社会を目指して～
9	積極性を生む授業作り
10	思考力と計算能力の関係



プレゼンテーションソフトを使って、各班4分間の発表を行いました。



最後に香川大学教育学部の小方先生と香川県教育委員会の笠井先生より、講評をいただきました。



ご指導いただいた香川大学教育学部の先生方、アンケートにご協力いただいた先生方、児童生徒の皆さんをはじめ、研究に関わっていただいたすべての方へ

**本当にありがとうございました。**

今後とも、教育創造コースの生徒達の活動にご注目下さい！！

## 香川大学教育学部附属坂出小学校で 支援活動②（1年）を実施しました

11月19日、香川大学教育学部附属坂出小学校において、教育創造コースの1年生が、4時間目途中からの授業支援、給食、昼休み、清掃、5時間目の授業支援を行いました。



児童と一緒に授業の中で活動し、教師という仕事の大変さを実感する一方で、小学校教員のやりがいもより一層強く感じることができました。今日はありがとうございました。

# 香川大学教育学部附属坂出幼稚園で 支援活動①（2年）を実施しました

10月1日、香川大学教育学部附属坂出幼稚園において、教育創造コースの2年生がガイダンスの後、園庭やリズム室、各保育室で園児と一緒に活動しました。



初めての幼稚園での活動が、やっとできました。高校生も園児と一緒に全力で遊び、とても楽しい時間を過ごすことができました。そして、心に残る場面がたくさんありました。

幼稚園の先生方、園児の皆さん、ありがとうございました。

## 香川大学教育学部附属特別支援学校へ 訪問・見学に行きました

11月12日、教育創造コースの2年生が、坂出市内にある香川大学教育学部附属特別支援学校を訪問しました。多田副校長先生から、学校の概要についてご説明いただいた後、小学部・中学部・高等部の各部主事先生の案内で授業参観をさせていただきました。



多田副校長先生から、特別支援学校だけにある授業や、特別支援学校の教育課程にない授業について教えていただきました。また、部活動や行事についてのお話もうかがいました。健常者と障がい者が共に生きていく共生社会を作るために、教育現場が重要だというお話が印象的でした。

小学部・中学部では、各教室での授業の様子を見学しました。高等部では「作業学習」ということで、農業、窯業、裁縫の作業の様子を見学しました。



～生徒の感想より～

特別支援学校の先生も将来の仕事の選択肢の1つになったので、これから詳しく調べていきたい。

特別支援学校を支えて日々努力している先生はとてもやりがいのある仕事だと思った。

生徒が安心安全に生活できるように様々な工夫がされていた。

全てやってあげるのではなく、どうしたらその子が自分の持っている力でそれをできるようになるかというのが考えられていた。

生徒一人ひとりに寄り添った、また教え方等を工夫している点が多く、学習やその他の生活面でもより成長できるような環境作りが徹底されていた。

本日は、貴重な体験の場を設けていただき、ありがとうございました。

## 香川大学教職リカレント教育プログラム（免許状更新講習） 令和3年度

- ・ 文部科学省委託事業として15講座を開設した。  
「就職氷河期世代を対象とした教職に関するリカレント教育プログラム事業」

■講習形態: オンライン講座

■講習期間: 令和3年10月1日～令和4年2月28日

■試験期間: 令和3年11月5日～令和4年2月28日

■実施状況（令和3年12月16日現在）

## 1. 講座別受講者数

	領域	講習名	担当講師	申込者数
1	必修	教育の最新事情	小方 直幸（教育学部 教授） 松井 剛太（教育学部 准教授）	20
2	選択必修	道徳教育の充実	植田 和也（教育学部 教授）	4
3	選択必修	教師の指導が助長する問題行動とその見方	大久保 智生（教育学部 准教授）	9
4	選択必修	災害に学ぶ学校防災	北林 雅洋（教育学部 教授） 寺尾 徹（教育学部 教授）	2
5	選択必修	心理学からみた学習意欲	岡田 涼（教育学部 准教授）	4
6	選択	道徳教育の充実	植田 和也（教育学部 教授）	1
7	選択	教師の指導が助長する問題行動とその見方	大久保 智生（教育学部 准教授）	4
8	選択	災害に学ぶ学校防災	北林 雅洋（教育学部 教授） 寺尾 徹（教育学部 教授）	2
9	選択	心理学からみた学習意欲	岡田 涼（教育学部 准教授）	10
10	選択	乳幼児理解から「子どもとつくる保育」へ	松本 博雄（教育学部 教授） 松井 剛太（教育学部 准教授）	7
11	選択	表現遊びを楽しむ	岡田知也（教育学部 教授） 藤元恭子（教育学部 教授）	7
12	選択	子どもの問題の中に発達を見る	加藤弘通（北海道大学大学院 教育学 研究院 准教授）	15
13	選択	はじめての特別支援教育	小方 朋子（教育学部 教授） 中島 栄美子（教育学部 准教授）	6
14	選択	特別支援教育のノロイをちょっぴりほどくー発達障害の子どもに学ぶ	赤木和重（神戸大学大学院 人間発達 環境学研究科人間発達専攻 准教授）	3
15	選択	障害があるとはどういうことなのか？ーICFと新しい能力観ー	坂井 聡（教育学部 教授）	2

## 2. 都道府県別受講者数

香川	13
(県外)	
広島	1
神奈川	1
千葉	2
大阪	1
福岡	1
青森	1
県外小計	7
合計	20

覺書・要項

## 香川大学教育学部と香川県教育委員会との 連携協力に関する覚書

### (目的)

第1条 香川大学教育学部（以下「甲」という。）と香川県教育委員会（以下「乙」という。）とは、教員養成の充実、教員の資質・能力の向上及び教育上の諸課題への対応のため、相互に連携協力して実践的な研究及び活動を行い、その成果を生かして香川県の教育の充実・発展を図る。

### (実施機関)

第2条 前条に規定する連携協力は、甲（その附属機関を含む。以下同じ。）と乙（その所管する教育機関を含む。以下同じ。）の間で実施する。

### (研究及び活動の内容)

第3条 第1条の規定に基づき連携協力して実施する内容は、次のとおりとする。

- (1) 教員養成に関する事項
- (2) 教員研修に関する事項
- (3) 学校教育上の諸課題への対応に関する事項
- (4) その他両者が必要と認める事項

### (連携の方法)

第4条 甲と乙は、連携協力を当たってそれぞれ職員の派遣及び受け入れについて協力するとともに、自らの有する施設等の利用についても、業務に支障のない範囲で双方便宜を供するものとする。

### (連携協議会)

第5条 甲と乙は、相互に連携協力を推進するため、「香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会」（以下「連携協議会」という。）を置く。

### (経費)

第6条 連携協力の推進に関わる経費については、各機関が負担する。ただし、職員の派遣経費は、要請した側が負担する。

### (補則)

第7条 この覚書に定めるもののほか、連携協力の細目その他については、甲と乙が協議して別に定めるものとする。

2 この覚書に定める事項に疑義が生じた場合は、甲と乙は協議してその解決を図るものとする。

この覚書は、2通作成し、甲と乙がそれぞれ1通を所持するものとする。

平成14年 5月30日

香川大学教育学部長  
妻 鳥 敏 彦

香川県教育委員会教育長  
惣 脇 宏

## 香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会要項

### 1. 設置

香川大学教育学部（以下「甲」という。）と香川県教育委員会（以下「乙」という。）との連携協力に関する覚書第5条の規定に基づき、香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

### 2. 事業

協議会は、連携協力に関する事項等について協議するため、年1回程度開催する。

### 3. 組織

協議会は、別表に掲げる職にある者をもって組織する。

### 4. 役員

協議会には、会長、副会長を置き、会長には香川大学教育学部長をもって充てるとともに、副会長には香川県教育委員会教育長をもって充てるものとする。

会長は、協議会を代表し、会務を統括する。

副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある時は、副会長がその職務を代理するものとする。

### 5. 専門委員会

協議会に、連携協力に係る具体的な事項等について検討するため、専門委員会を設置することができる。

専門委員会には、委員長及び副委員長を置くものとする。

なお、専門委員会は、甲又は乙の申し出により適宜開催するものとする。

### 6. 幹事会

協議会に、協議会及び専門委員会の事務を処理するため、幹事会を置くものとする。

幹事は、香川大学教育学部及び香川県教育委員会の関係職員をもって充てるものとする。

### 7. 補則

この要項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会の承認を経て会長が定める。

#### 附 則

この要項は、平成14年5月30日から施行する。

#### 附 則

この要項は、平成19年4月1日から施行する。

#### 附 則

この要項は、平成20年2月13日から施行する。

#### 附 則

この要項は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、令和2年4月1日から施行する。

別 表

香川大学教育学部

教育学部長

副学部長

教育研究評議員

実地教育委員会委員長

学生支援専門委員会委員長

学務委員会委員長

入試専門委員会委員長

附属学校代表

附属教職支援開発センター長

幸町地区統合事務センター長

幸町地区統合事務センター事務課長（幸町北キャンパス担当）

香川県教育委員会

教育長

副教育長

教育次長

総務課長

義務教育課長

高校教育課長

特別支援教育課長

香川県教育センター所長